

学校現場における 出前授業のつくり方



「徳島の未来を担う子ども達のため、
是非e-とくしま推進財団会員みんなで
やっていきましょう」

公益財団法人 e-とくしま推進財団

企業による出前授業について

出前授業の意義

①本物と出会えることができる

＊企業やプロフェッショナルの授業には、その中に本物があり、その本物には人生や生きる姿勢、考え方を変えるようなインパクトがある。そして、そのインパクトが子どもの気持ちを動かしていく。

企業やプロフェッショナルによる出前授業は子ども達が「本物と出会う、本物にふれる、本物に感動する」という点において、大変意味のあることです。

こうした、本物との出会いが、子ども達の出会ったものやことに対する興味や関心を高めたり、自分自身に気づいたり、自分の将来について考えたり、なりたい自分を見つけたりすることにつながる。

②学習の意義・意味を知ることができる

＊「なぜこの学習があるのか」という学習の出口を知ることができる。

(例) 中学では理科嫌が多いと言われているが、科学技術系企業による出張授業を通して、生徒が最先端の科学技術にふれることで、「理科の素晴らしさ」や「理科を学ぶ意味」等を知ることができ、理科を好きになるきっかけになる。

③沢山の本物と出会うことで、「なりたい自分」を見つける

＊ただ学ぶだけの学校では、子ども達が「なりたい自分」を見つけることは、とても難しい。しかし、沢山の本物に出会い、沢山のインパクトを受ける中から、「どんな職業にしていきたいか…」「どのように生きたいか」その具体的なイメージをつかめるようになる。

＊高い志をもった子ども達に、クラスに、学校に「いじめ」や「不登校」は起こりづらくなる。「なりたい自分」をもつことで、今、学校教育が抱える様々な問題が解決されていく。「なりたい自分」を児童生徒一人一人にもたせてあげることが、教育にとって最も大切なこと。

「キャリア教育出前授業」で期待される効果

◆子どもの頃いろいろな勉強していく中で、これが大人になって何の役に立つのだろうと思ったことはありませんか？出前授業ではそのような漠然とした疑問への答えになるヒントがあるのです。

◆勉強したことがどう社会に役立つのかわかる

単に知識を詰め込むだけの教育では、大人になった時にどう活用すればいいのかわからないというものもある意味当然です。勉強したことが社会でどう活用されているのかがわかるとそれだけ勉強にも身が入りやすくなるでしょう。

◆子どもの生きる力が向上する

学んだ知識を社会で活用する方法がわかれば、今勉強していることをもとに、自分で新し

くものごとを考えて答えを出す楽しさを知ることができます。そのため子どもの自由な発想力を鍛えるきっかけになることが期待されています。また、学校の先生でも親でもない大人と接することで子どもの社会性やコミュニケーション能力を高めることにつながります。

◆今後のキャリア教育につながる

実際にその仕事に携わる人の、生の声で、仕事の楽しさや厳しさなどを具体的に聞くことができるため、子どもが将来どんな仕事に就きたいかのイメージを固める良い機会になります。目標があれば、学校での生活の仕方や勉強への取り組み姿勢、進路選択に対する意識が変わってくると考えられています。

「キャリア教育出前授業」で期待される効果（企業）

○ 産業界を担う人材の育成

本県においては、地方創生に向けての施策等が加速しており、地域ぐるみで次代を担う人材の育成につながります。

○ 企業等の認知度の向上

出前授業をしていただくことで、企業等の概要や、事業内容及び開発商品等への理解やPRにつながります。

○ 職場の活性化

社員が社会貢献を意識することでモチベーションが上がるとともに、子供たちとの関わりを通して、新たな視点で職場を見直すことにつながります。

○ 教育への参画を通しての社会貢献

子供たちの「職業観・勤労観」の育成に向けて、教育活動に参画いただくことが社会貢献となり、企業等のイメージアップにつながります。

○ 学校教育への理解

学校訪問を通して、学校における教育活動の理解が深まるとともに、複数回の訪問により発達段階に応じた子供たちの意識や成長を実感することができます。

○ 学校・地域間連携の推進

子供たちが地域の企業等で学習し、多くの方々と触れ合うことで、子供たちの地域への愛着に向けての意識が高まります。

○ キャリア教育への理解

子供たちに、キャリア教育で身に付けさせたい能力・態度を、出前授業を通して意識していただくことで、本県が目指すキャリア教育の理解につながります。

出前授業は企業にとってもメリットがあります。子どもに授業と社会とのつながりを理解してもらうことで、企業にとっては社会貢献になると考えられます。また、企業に興味を持ってもらうことで、その企業の次世代の人材育成にもつながります。そのため出前授業を重視し、新入社員の新人教育として積極的に実施している会社もあります。

「キャリア教育出前授業」で期待される効果

生徒への効果

- 働くことへの理解や大切さ、喜びを実感することにより、しっかりとした勤労観や職業観を身に付けることができる。
- 体験等を通して日々の学習の意義を再認識し、学校の学習と職業との関係について理解を促進することができる。
- 仕事する上で必要な知識・技術・資格等についての理解が深まる。
- 多くの職業人と出会うことで、コミュニケーションの大切さを学ぶことができる。
- 社会人として必要な、挨拶やマナー、ルールなどを認識することができる。
- 自己理解や自己肯定感の向上につながり、自らの進路について考えることができる。
- 地元企業等をはじめ地域への理解が深まり、地域への愛着心の醸成につながる。

学校への効果

- 学校・地域間連携が促進される。
- 企業活動や企業が求める人材像について、理解が深まる。
- キャリア発達を促進する視点から、3年間を見通した系統的な実施計画の作成につながる。
- 将来の職業意識の向上につながる教育活動への見直しの機会となる。
- 教員の意識改革や、学校におけるキャリア教育の促進につながる。

家庭への効果

- 働くことを通しての家族間における会話の促進や地域の企業活動等に対する理解が深まる。
- 学校における教育活動への理解が深まる。

以上のように、「出前授業」には、たくさんの意義や効果が期待できます。
これまでに授業を実施した学校、児童生徒、教員からは好評の声をいただいております。
徳島の未来を担う子ども達のため、是非出前授業にご参加いただきたいと思います。
よろしく申し上げます。

次頁に「出前授業のポイント」等の簡単な資料を載せてあります。あくまで参考資料ですので、各会員様で自由に授業を進めてもらえたらと思います。

出前授業のポイント

◆授業の組み立て方の例

時間：通常の時間割で、小学校 45 分／中学校・高校 50 分

○会社の紹介，自分の仕事内容など。

○地域の話，自分の小学校，中学校，高校時代のこと，テレビの話，趣味や特技，仕事以外で熱中していることなど，身近な話題で子どもたちの関心を引くようにします。

○話だけでなく体験的な活動も盛り込むと，子どもたちの興味もいっそう増します。

最後に「学校で学んだこと，経験したことは，実社会に出ても役立つ」と子どもたちを励まします。

○最後の 5 ～ 10 分程度は質疑応答に当てます。その場で答えられない質問も，あとで回答を送るなどして，必ず回答するようにします。

お話いただきたい内容（例）

- ・働くことの大切さ，意欲，楽しさ，苦しさ，生きがい
- ・これからの社会で生きていくために必要な力（気力，体力，学力，人間力，社会性など）
- ・時代や社会の変化，世界の動き，日本の役割
- ・子どもの頃に抱いていた夢や目標
- ・なぜ今の職業を選んだのか
- ・学校での勉強がなぜ大切か

授業のポイント

◆ゆっくりと，できるだけ大きな声で話します。

◆できるだけやさしくわかりやすい言葉で話します。

◆教壇では，教室全体を見渡すようにします。

小学生に質問する際は，児童の近くに行き，視線を低くし，目線を合わせるようにします。

◆話の合間に質問等を入れながら子どもたちの発言を引き出すといった，対話形式も効果的です。

※「やさしくわかりやすい言葉」とは…

出前授業では，対象の子どもたちの学年に合わせて，できるだけ平易な言葉遣いで話す必要があります。たとえば，大人にとって当たり前の「企画」や「営業」という言葉ですら小学生には理解しづらいものです。それぞれ，「計画を立てること」，「商品をお客様に売る仕事」などと言い換えて説明することで，子どもでも理解しやすくなります。

配慮すべき表現については，あらかじめ教員に確認しておくことも大切です。

資料の準備について

【資料作成の留意点】

- ・小学生向けでは、できるだけ枚数を少なくします。授業時間内できちんと収まるよう事前に時間配分を考慮する必要があります。
(授業1コマ45分～50分)
- ・小学校・中学校・高等学校にかかわらず、文字だけでなく、写真・図・イラスト等を使うとより分かりやすくなります。
- ・実物の製品や作品、映像、衣装、実験器具などを用いたり、実際に体験したりすると、子どもたちの興味を引きやすくなります。
- ・特に小学校の場合、使用する漢字に留意する必要があります。習っていない漢字は使用しないか、ルビを振るようにします。
- ・内容・資料については、事前に教員に目を通してもらうこともできます。
- ・会社のパンフレット等の配布物がある場合は、出前授業後、教員に教室で配布してもらえます。

*授業の進め方等について、質問・相談等がありましたら、当財団 教育情報化支援担当の者まで、いつでも気軽に御連絡いただければと思います。

〒770－0843

徳島市両国本町1丁目14番地2

福助ビル第724階

公益財団法人 e-とくしま推進財団事務局

TEL：088-677-8411 FAX：088-652-0072

e-mail：information@e-tokushima.or.jp